

年 組 名前：

問1

甲府城南側の再整備計画が発表されました。歴史文化交流施設以外に、なにができますか。2つ答えてください。

-
.....

問2

次の文章のAからEに当てはまる言葉や数字を、答えてください。

『歴史文化交流施設は、A建てで延べ床面積約B平方メートル。多目的ホールはC人を収容できる。江戸時代に甲府で栄えたD「亀屋座」をイメージし、資材の一部にはEを利用する』

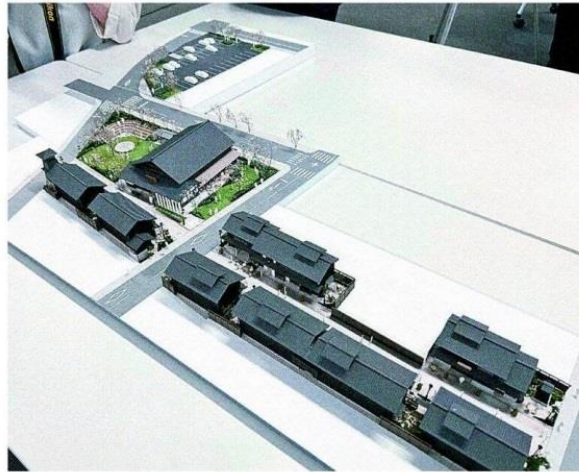
- A
B
C
D
E

問3

この施設に、多くの来場者が来るために、(2024年4月10日付 山梨日日新聞 18面) あなたなら、なにをすれば良いと考えますか。

-
.....

甲府城南側整備の概要発表
交流施設 120人収容ホール



甲府城南側整備計画の完成予想モデル



甲府城南側整備計画の完成イメージ



歴史文化交流施設の内部イメージ

100万円などとなる。
プランに伴う市の総事業費は13億1800万円。歴史文化交流施設の建設は約4億4800万円、飲食物販施設用地と散策路の整備は約6億6100万円などとなる。

18テナント入居 来春開業へ

甲府市は9日、甲府城南側の再整備計画「小江戸甲府 城下町整備プラン」で設ける歴史文化交流施設や交流広場などの概要を発表した。一連の施設は来年4月にオープン予定。歴史文化交流施設には120人を収容できる多目的ホールを設けるほか、飲食物販施設は18テナントを誘致する。同日記者会見した樋口雄一市長は「JR甲府駅北口の甲州夢小路と同様に、年間60万人の来訪者があれば約30億円の経済効果を試算できる。回遊性の向上につながるまちづくりを進めたい」と話した。
三枝大悟

整備プランの対象地域は約4000平方メートル。甲府城南側

から中心街のオリオンイーストへ伸びる散策路沿いに、歴史文化交流施設、交流広場、飲食物販施設を整備する。施設の東側には約1130平方メートルの広さ。イベント開催やキッチンカー出店などを想定し、来訪者に憩いの場所を提供する。
18テナントが入る飲食物販施設は木造2階の9棟。民間業者が施設を整備して運営する方式で、同市朝氣11目的のタンザワHD(丹沢大社長)が事業者となる。テナント入居者は選定中で、郷土料理や地場産品のジュエリー、着物などを提供する店舗を見込んでいる。